

# はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和2年7月 第5号】  
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

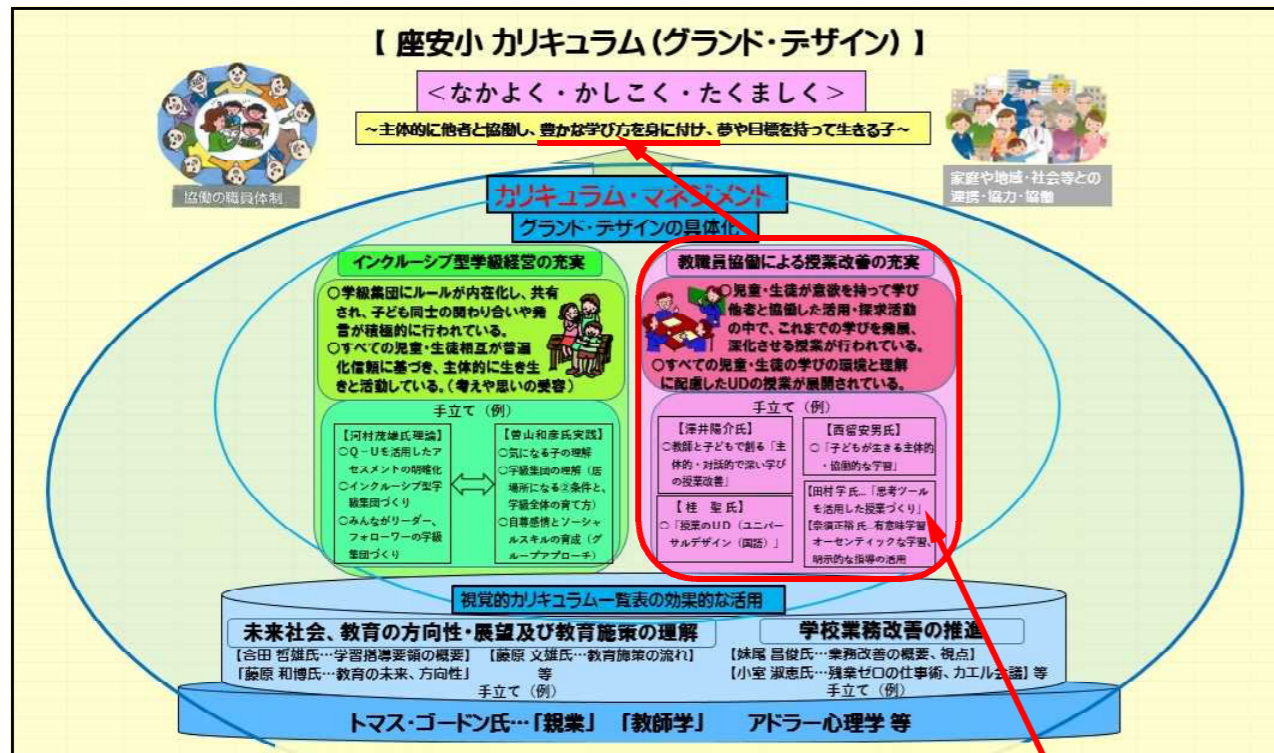
## なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

来週末から個人面談が始まります。今年度は家庭訪問も自粛していましたが、担任と保護者の方が（短い時間ではありますが）じっくりと顔を合わせて話す初めての機会となります。大切なことは我が子を預ける保護者として、預かる教師として信頼し合えることです。帰宅後「今度の先生も良い先生だね！」とお子さんに話すことができる面談にして欲しいです。それがお子さんと教師のやる気にもつながるからです。さて今回は前号の続き、教育目標実現を目指す手立て（方策）の説明、2回目です。

## 学力を保障する！～豊かな学び方を身につけていく～



小学校は「社会性の基礎・基本を育成する場」に加え、「学力を保障する場」であると考えています。この学力の保障こそ、教職員の専門分野です。従って、保護者の皆様にご協力を依頼することはありますが、決して頼ることはできません。

ところで、AI時代を生き抜く子ども達にとっての「学力」の捉え方は、十数年前から大きく変わってきました。学力の捉え方の詳細をここで記載することは紙面上むずかしいですが、概略を記すと、知識や技能を習得する能力から、（もちろんそれも大事にしながら）主は、それらを活用する学び、問題や課題を解決していく能力へと

変わってきたということです。ですから、本校では【かしこく】を「豊かな学び方を身につける」としています。本やインターネットで調べたり、友だち同士で話し合ったり、実際に現地に行って専門の人に聞いたり調査したり等々、学んでいく手立てを発想豊かに持つことです。それが、問題や課題を解決していく能力につながるからです。その問題等解決力を育成していくための手立て（方法）が図の真ん中右に記載されている2つの○です。今後、全教職員で実現したい授業の在り方（方策）です。

- 児童が意欲を持って学び、他者と協働した活用・探求活動の中で、これまでの学びを発展、深化させる授業が行われている。（訳：子ども達が進んで、友だちや仲間と協力して課題に取り組んだり、追求したり、さらに新しい発見を課題にして学んでいく授業が行われている）
  - すべての児童の学びの環境と理解に配慮したUDの授業が展開されている。（訳：どの子にもわかるよう、授業のねらいを明確にし、説明などは図などで見える化した上で、児童間の話合いの中でどの子も子ども同士の言葉で理解し、納得できる授業が行われている。）
- \*UDとは、ユニバーサル・デザインといって、「焦点化」「視覚化」「共有化」をキーワード（波線部分）に、支援を要する児童にもわかる授業は、全児童にもわかるという考え方をもとに開発された授業法です。これも教育用語ですので、保護者にとってはわかりにくいですが、ご了承下さい。

1つめの○を、ご家庭へご協力を求めるとすれば、以下ようになります。

- 家庭学習では、予習や復習をしているか確認したり、お子さんの興味のあることについて本を買い与えたり、図書館と一緒に足を運んだり、体験活動等に参加させてあげるなど。
- \*要は、先生から与えられたことだけをする受け身の学習ではなく、子どもの工夫や興味関心をさらに伸ばしてあげられるような関わり方をしてほしいのです。2つめの○については教師の指導の範疇です。

## 【今年度取り組む手立て（方策）は？】

上記の2つの課題を実現していくために、今年度取り組む手立て（方策）について教職員全員で話し合いました。以下に要約して掲載します。

### <豊かな学び方を身につける児童を育成していくために>

#### ①実態把握（何が問題か？ 何に視点を当てるか？）

- 自分の意見を伝えたり発表したりすることが苦手。
- 恥ずかしがり屋、自信のなさ、まわりの雰囲気。
- 豊かな学びを身につける大切さを指導できてない。



#### ②その改善のための手立ては？（【全職員で】何を必要とするのか？）

- 教師や子ども達どうしが、どんな意見でも認め合える支持的風土づくりを行う。（聴く力）
  - ペア学習を基本に、話合い活動を活性化させる。（+ハンドサインで個々の考えを確認する）
  - 教師の授業アイデアや工夫を結集し、児童が迷わない授業スタンダードを創り上げる。
  - 座安小学校が児童に身につけさせたい力等を、授業を通して、子ども達と共通理解する。
- ※この4つめの○については、8月実施に向けて、授業の準備を進めているところです。これまで説明してきた座安小がめざす目標や手立てについては、子ども自身こそが知り、理解し納得することが大切だと思うからです。その授業内容については、後日ご紹介します。

## 毎日の授業参観から…！

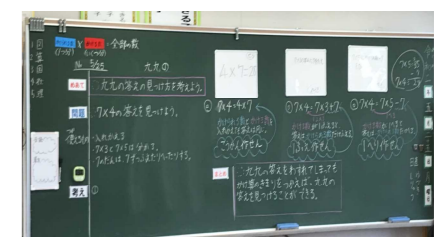
学校再開1ヶ月が過ぎ、少しずつ落ち着いてきたところで、授業を1時間、じっくり参観し、授業づくりを個々の教師と一緒に考えるようにしています。



5年生  
マスクやフェイスシールドを使って、短い時間ですが、話合い活動を行います。子ども同士の言葉はわかりやすく理解しやすいのです。



4年生



ねらいを絞り、子ども達の考えや学習内容の見える化は普段から！